

算数 第1学年 くらべた ことがあるかな / おおいのは どちらかな 検討会の想定問答

指摘 1: 本時で何を明らかにするのですか。

返し: 中心は「物を一つずつ対応させて多さを比べる」です。本時の課題は「二種類の積み木を間隔を変えて並べ、どちらが多いか確かめる」。児童が「並べ方が違って、一対一に組にすると余った側の方が多い」という根拠を、自分の確かめ方に結び付けて説明できることを目指します。

指摘 2: 単元全体と本時はどうつながりますか。

返し: 「身の回りで比べた経験を話す」から始め、「並べ方を変えて比べ直す」へ進みます。本時では、手順や答えだけでは判断できないところを取り上げ、根拠を確かめます。既習が足りなければ、導入で必要な操作や表し方へ戻ります。

指摘 3: この課題を選ぶ理由は何ですか。

返し: 「長く並んでいる方が多い」という考えと、実際に確かめた結果を比較できるからです。単に誤答を訂正させるのではなく、何を見落としていたかを児童が説明する場面を作ります。

指摘 4: つまづいた児童にはどう支援しますか。

返し: 積み木を一つずつ向かい合わせに置き、余った物を指させる。その後、教師が説明を続けるのではなく、本人に操作した箇所を示してもらいます。同じ例を覚えてただけかを確かめるため、条件を少し変えた場面でも説明してもらいます。

指摘 5: 評価の証拠は何ですか。

返し: 思①では、「並べ方が違って、一対一に組にすると余った側の方が多い」を、用いた具体物・図・表・式のうち課題に必要な表現と対応させて説明している。正答だけで判断せず、根拠の箇所を指さす説明や、操作の途中の記録も使います。知①の習得と、理由を述べる思①を区別して記録します。

指摘 6: 交流で何を比較させますか。

返し: 答えの違いだけでなく、「並べ方が違って、一対一に組にすると余った側の方が多い」をどこで確かめているかを比較します。教師は説明の共通点と条件の違いを整理し、児童が自分の説明を直す時間を残します。

指摘 7: 理解が進んだ児童への課題は何ですか。

返し: 「物を一つずつ対応させて多さを比べる」ために使った方法が、条件を変えても成り立つかを考えさせます。別の数値を速く処理するだけでなく、方法を使える条件や、使えない例を説明する方向へ広げます。

指摘 8: 時数と本時の位置の根拠は何ですか。

返し: 公式の単元配当は1時間。各次の配分と第1時の位置は本資料の提案であり、公式細案の転記ではない。自校の年間指導計画と学級の既習を確認し、必要な学習を省かず調整します。

指摘 9: 学習指導要領との対応はどこですか。

返し: 対応箇所は学年の目標(1)・学年の目標(2)・学年の目標(3)です。公式資料の個別対応事項は未指定。導入・復習で参照する学年目標を本資料で対応付けた。用語の暗記だけにせず、課題の解決と説明の中で内容を扱います。

指摘 10：時間が足りないとき、何を優先しますか。

返し：「並べ方が違って、一対一に組にすると余った側の方が多い」を確かめ、初めの説明を直す場面を優先します。発表する方法の数は絞っても、全員が根拠を示し、教師が思①の証拠を得る時間は残します。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

